科目名:発達心理学Ⅰ	担当者:布施　佐代子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
「人間は一生かけて発達していく」という生涯発達の視点に立ち、人生の基礎を築く「子ども時代」の中でも保育の対象となる乳児・幼児・児童の時期を中心に、保育との関連で子どもの心理発達の特徴としくみについて学ぶ。保育場面の映像や事例による学習の他、グループディスカッション等も随時取り入れて、より実践的に学びを深められるようにしていく。グローバルな視点から、多文化共生の中での子どもの発達と保育についても考えていく。

授業の到達目標
１．子どもの発達に関する基礎的な知識を確実に身につけている。２．さまざまな機能領域での発達を理解し、それを統合して「一人の人間」として「人や物とかかわりながら発達　していく子ども」の姿を具体的に思い描くことができる。３．生涯発達の視点から保育の重要性を理解し、子どもの発達と保育の関係について考えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業に際して、準備学修と事後学修をきちんと行うことにより、理解の徹底をめざしたい。準備学修として、教科書の該当部分や配布資料をあらかじめよく読み、与えられた課題についてポイントや意見をまとめておく。事後学修では、学修範囲のポイントを中心に学んだことを確認し、理解と考察を深める。　子どもと実際にかかわる機会を積極的に持つように心がけ、子どもとかかわりながらさらに子ども理解を深め豊かにしていくよう努めてください。

評価方法
定期試験　60%、レポート・課題提出　20%、授業への参加態度（毎回のワークシートへの記入内容、グループディスカッションへの取り組み状況等）20%から、総合的に評価します。

教科書	参考図書
「育ちあう乳幼児心理学」心理科学研究会編　有斐閣	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）フレーベル館

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日本だけでなく外国の子どもにも実習等でかかわる機会があるので、グローバルな視点から子どもの発達を的確にとらえ適切な対応を考える姿勢を大切にしましょう。オフィスアワーは月曜・金曜のお昼休みです。

01	保育と心理学（１）子どもの発達を理解する意義、発達理解と文化、保育実践とのかかわり
02	保育と心理学（２）発達をとらえる基本的な視点と基礎理論
03	子どもの発達理解（１）0・1・2歳児の運動機能の発達と保育
04	子どもの発達理解（２）3・4・5歳児の運動機能の発達と保育
05	子どもの発達理解（３）0・1・2歳児の認知の発達と保育
06	子どもの発達理解（４）3・4・5歳児の認知の発達と保育
07	子どもの発達理解（５）0・1・2歳児の言葉の発達と保育
08	子どもの発達理解（６）3・4・5歳児の言葉の発達と保育
09	子どもの発達理解（７）0・1・2歳児の人とのかかわりの発達と保育
10	子どもの発達理解（８）3・4・5歳児の人とのかかわりの発達と保育
11	子どもの発達理解（９）0・1・2歳児の自我の発達と保育
12	子どもの発達理解（10）3・4・5歳児の自我の発達と保育
13	子どもの発達理解（11）児童期の発達と教育
14	生涯発達と初期経験の重要性（１）胎児期・新生児期との関連で乳幼児の発達を考える
15	生涯発達と初期経験の重要性（２）青年期・成人期・老年期との関連で乳幼児の発達を考える
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:社会福祉	担当者:古畑　淳	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　わが国の社会福祉は近年、少子高齢社会の進展、家族形態の変容、都市化・過疎化など地域課題の発生、雇用や経済の格差が広がる中で、ますます重要性が増している。講義ではそのような社会福祉について、①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、②社会福祉の制度と実施体系、③社会福祉における相談援助、④社会福祉サービスの利用の仕組みと利用者保護の仕組み、⑤社会福祉の動向と課題の５つについて学習する。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。授業内容により、グループワークとグループ発表の方法を取り入れる。

授業の到達目標
　①社会福祉の意義と歴史的変遷、②社会福祉の制度と実施体系、③社会福祉における相談援助、④社会福祉サービスの利用の仕組みと利用者保護の仕組み、⑤社会福祉の動向と課題、について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　配布したレジュメ（学習資料）をよく読んで、知識の定着を図ること。　単元の終わりに、ポイント確認と称するプリントを配布する。問題形式でポイント確認を行うものである。受講者は次の授業までにこのプリントに取り組むことが求められる。

評価方法
　定期試験（85%）、授業態度（15%）で評価する。

教科書	参考図書
担当者作成のレジュメ・資料（各種統計資料、新聞記事、自治体広報記事等）を用いて授業を行う。	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　社会福祉の現状を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	最近の社会保障、社会福祉の話題
02	社会保障、社会福祉の理念と概念
03	憲法が保障する生存の権利について
04	社会保障、社会福祉の歴史
05	社会福祉の理念の変化と社会福祉基礎構造改革
06	社会福祉の制度と法体系
07	社会福祉制度の実施体制
08	社会福祉の専門職と地域の協力者（民生委員制度）
09	社会福祉の相談援助
10	社会福祉の提供主体（社会福祉法人制度を含む）
11	社会福祉サービスの利用者と権利擁護
12	社会福祉の財政と利用者負担
13	生活保護制度の理解
14	高齢者福祉制度の理解
15	障害者福祉制度の理解
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:教育原理	担当者:金子　晃之	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育・学校の理念を理解する為、毎回、記入式のプリント、参考資料を配布し講義を行う。映像を用いて説明し映像を用いた事例検討を行う。また、受講者がグループ学習で意見交換した後、自分の考えたことを配布プリントに書き込みプレゼンテーションする作業を行う（全5回）。また小テストを行う（全2回）。

授業の到達目標
　この授業の目標は、①家族・社会を含めた教育・学校の歴史・思想・理論について知識を身に付けること、②近代の教育・学校の理念・目的・営みが、どのようなものとして出現し展開してきたのか、そこにおける課題は何かについて理解することにある。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　毎回指示するが、基本的に、次回の資料やプリントをあらかじめ配布する際は、次回までに与えられた課題について学習しておくこと。授業後は、配布資料や書き込んだプリントを読み直し、ポイントを振り返りながら、内容の理解を深めておくこと。

評価方法
　受講態度（20点）、授業時の小テスト（10点）、期末の筆記試験（70点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
毎回、資料とプリントを配布する。	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「小学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワー　月曜日昼休み　研究室

01	人間形成とアタッチメント
02	明治期以前の家族・学校・社会と人間形成
03	明治期の家族・学校・社会と教育①　近代教育制度の歴史・理論
04	明治期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園・保育所の歴史・思想
05	大正期の家族・学校・社会と教育①　新教育運動と日本型学校文化の歴史・思想
06	大正期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園の歴史・思想と教育家族
07	昭和期の家族・学校・社会と教育①　軍国主義下の教育の歴史・理論
08	昭和期の家族・学校・社会と教育②　戦後教育の歴史・理論
09	昭和期の家族・学校・社会と教育③　詰込み型教育の歴史・理論
10	昭和期の家族・学校・社会と教育④　ゆとり型教育への転換
11	平成期の家族・学校・社会と教育　　学力観の転換
12	欧米近代の家族・学校・社会と教育①　宗教改革と子ども観の転換
13	欧米近代の家族・学校・社会と教育②　家庭教育と学校教育の思想
14	欧米近代の家族・学校・社会と教育③　新教育運動の学校と思想
15	近代の学校と教育の特性と課題について
16	学期末試験

2018年度シラバス

科目名:保育原理	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法 保育とは何かを自分の体験を通して、及び学びを通して深めます。そして保育はどのようにして始まり、どのようにして現在に至っているか、歴史も振り返りながら学びます。また自分自身の保育観・こども観を振り返りながら保育観を深めます。具体的な子どものイメージが出来るように、実践例を出しながら進めます。
授業の到達目標 ・保育の意義及び目的について理解する・保育に関する法令及び制度を理解する・子どもの最善の利益を学び、保育の現状と課題を学ぶ中で、保育とは何か、保育とはどうあるべきかを深める。・保育所保育指針等保育の基本について理解する ・保育の思想と歴史的変遷・保育の現状と課題について理解する
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 ・ボランティア経験や街の中の子どもの様子を観察してください。・自分で考える、考えたことを記録する習慣を身に着けてください.・主体的な参加と積極的な発言や質問を期待します。
評価方法 ・授業態度20%＋小レポート30%＋確認テスト50%

教科書 無し	参考図書 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・授業でその都度紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 授業などで連絡する

01	保育とは何かを考える・・保育の理念と概念について学ぶ
02	子どもの権利条約と最善の利益と保育について学ぶ
03	保育の社会的役割と責任について学ぶ
04	子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関係法令を学ぶ
05	子ども・子育て支援制度、保育の実施体系、及び昨今の義務教育化や保育無償化について学ぶ
06	保育所保育指針における保育の基本を学ぶ
07	保育の目標と方法・内容・環境を学ぶ
08	保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）と循環を学ぶ
09	保育の思想と歴史Ⅰ（ルソー１）を学ぶ（ルソーの考え方・エミール乳幼児期）
10	保育の思想と歴史Ⅱ（ルソー２）を学ぶ(エミール児童期)
11	保育の思想と歴史Ⅲ（ペスタロッチ・フレーベル・デューイ）を学ぶ
12	保育の思想と歴史Ⅳ（倉橋惣三）を学ぶ
13	保育の思想と歴史Ⅴ（戦後）を学ぶ
14	保育の環境：再度保育とは何かを深める
15	まとめ　確認テスト
16	

2018年度シラバス

科目名:保育者論	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
卒業後に就職する際、「自分の理想の保育者像」を確かなものにし、その実現に向けて一歩づつ近づく方法を身に付けて、就職できるように学びたい。先人の保育や保育観を学びながら、常に、「自分ならどうするか」をイメージしながら授業が出来るようにしたい。15回の中で、1回はレポートの提出・発表を体験する機会を作ります。

授業の到達目標
・保育者の役割と倫理について学ぶ・保育士の制度的な位置づけを学ぶ・保育士の専門性について学ぶ・保育者の連携・協働・資質向上・キャリア形成について学ぶ

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・常に「保育とは」「保育者とは」を意識しながら、実習やボランティア・子どもと接するときに考えてください。

評価方法
小レポート４０%・授業態度20%・課題レポート４０%

教科書	参考図書
無し	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・全国保育士会倫理綱領ガイドブック・その他授業の中で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業などで連絡する

01	保育者の役割と倫理について学ぶ
02	保育士の制度的な位置づけを学ぶ
03	保育者の連携・協働について学ぶ
04	保育者の資質向上とキャリア形成について学ぶ
05	求められる子育て支援について学ぶ
06	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅠ野口幽香・森島峰
07	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅡ倉橋惣三
08	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅢ畑谷光代
09	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅣ安部富士男
10	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅤ嶋さなえ
11	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅥ近藤薫樹
12	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅦ斎藤公子
13	先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅧ岩月啓子
14	海外の保育について学ぶⅠスウェーデン・ノルウェー・デンマーク・ドイツ
15	海外の保育について学ぶⅡフランス・カナダ・ニュージーランド・オーストラリア
16	

科目名:保育内容総論	担当者:市野　繁子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園におけ保育内容の理解を深めます。「豊かな学びの共同体」の成員としてグループ活動を通して、参加・共同・創造する力を養います。グループメンバーと共に、子どもの生活や遊びについて具体的にイメージしながら保育者の援助や配慮を考えます。さらに、グループ討議や課題作成を通して、読む・聞く・書く・考える・発表する等の力を養っていきます。

授業の到達目標
本授業では、以下の点を目標に授業を進めていきます。①保育内容を「保育のプロセス」として展開していくために、保育者はどのような保育観や援助技術が必要なのかを理解する。②常に子どもを中心として、家庭、地域、小学校等へのつながりや連携を考えながら「開かれた園」としての具体的な保育内容を理解していきます。③5領域のねらいと内容とのつながりを理解し、生活や遊びの中で、環境を通して行う保育について理解を深めます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業に望む際に、必ず教科書を読み、学修のポイントを確認しておきましょう。授業の際に授業内容・学習のポイントを記入したプリントを配布します。その内容に関する予習を行い、課題プリントに示された内容を記入し、授業に参加します。授業後には、授業で行った内容を課題プリントにまとめ、各自振り返りを行います。毎回の授業の初めに、前回の授業ポイントの確認をしていきますので、しっかり復習をしましょう。復習を必ず行ってから授業に臨みましょう。

評価方法
授業への参加・学習態度20%、小テスト及び授業内課題・グループ活動への取り組み50%、レポート試験30%を総合的に評価する。

教科書	参考図書
豊田和子編著『演習　実践を創造する　保育内容総論』㈱みらい	幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内のマナーをしっかり守って円滑に授業が進められる様に楽しい授業を一緒に作り出していきましょう。連絡先は授業内で伝えます。

01	オリエンテーション・授業の概要と目的
02	子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容
03	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の役割と保育内容（１）幼児教育の基本
04	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の役割と保育内容（２）領域のねらいと内容とは
05	保育内容を展開するプロセス（全体的な計画と指導計画）
06	０～2歳児の保育内容とその展開
07	3・4・5歳児の保育内容とその展開（１）保育マップから見る子どもの遊びと環境構成
08	3・4・5歳児の保育内容とその展開（２）グループ発表とプレゼンテーション
09	異年齢児の保育内容とその展開
10	保幼小の接続と連携を創造する保育内容
11	子育て支援と地域に開かれた園を創造する保育内容（１）おたよりの作成
12	子育て支援と地域に開かれた園を創造する保育内容（２）グループ発表とプレゼンテーション
13	わが国における保育内容の変遷
14	諸外国の保育所・幼稚園の保育内容
15	これからの保育内容の課題とまとめ
16	

2018年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と健康」	担当者:寺田　泰人	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法 幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心とからだを育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に、乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。
授業の到達目標 （１）幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解する。（２）幼児期のからだの諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。（３）安全な生活と怪我や病気の予防を理解し、適切な指導方法を身に付ける。（４）幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、適切な指導方法を身に付ける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 　子どもの保健Iで覚えるべき知識を確実なものとするため、授業外での復習を行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。
評価方法 ①授業への取り組みに対する意欲や態度（30%)、②指導計画の立案、模擬保育の実践（30%)、③小テストを含む講義内容に関する筆記試験（40%)

教科書	参考図書 幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は授業時に案内します

01	保育における「健康」とは
02	基本的生活習慣の形成を支える援助 食事、排池、着脱衣、清潔の習慣形成を支える環境構成と援助
03	健康管理と安全能力を育む援助　健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助
04	健康な心とからだを育む保育の構想（計画立案1)
05	健康な心とからだを育む保育の構想（教材研究1)
06	健康な心とからだを育む保育の実践（模擬保育1)
07	健康な心とからだを育む保育の評価と改善1
08	多様な動きの経験を促す援助　発達発育と運動遊び
09	多様な動きの経験を促す援助　　遊びの意義、あそび論、遊びを触発する環境
10	健康な心とからだを育む保育の構想（計画立案2)　運動遊びを中心とした具体的な保育場面を想定した指導
11	健康な心とからだを育む保育の構想（教材研究2）―運動遊び指導の実際
12	健康な心とからだを育む保育の実践（模擬保育2)　幼児の動機付けや意欲などを配慮した遊びとしての運動指導の在り方
13	健康な心とからだを育む保育の評価と改善2―幼児理解と保育の視点を基盤とした評価
14	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校教科とのつながり
15	領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践幼児を取り巻く課題
16	まとめ

2018年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と言葉」	担当者:吉見　昌弘	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、保育内容の言葉に関する専門的知識と実践的技能の修得を目指します。子どもの言葉とは何か、言葉の発達とは、さらに言葉の発達を促すための教材として絵本等をどう活用すべきか学んでいきます。授業の方法は、授業の最初に絵本の読み聞かせを３名ほどが実演し、その後、教科書を読みビデオ視聴をした上で課題を解答します。座席は指定し、適宜、グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングの技法を用いて読み聞かせや絵本の制作を実施します。授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングを活用します。

授業の到達目標
１　幼稚園教育要領、保育所保育指針では領域「言葉」をどのように捉えているか理解できる２　言葉とは何か、言葉の発達過程について説明することができる３　言葉の発達を促す保育者の働きかけや絵本などとの関わりを理解し、実践できる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読むこと。加えて授業開始時に絵本の読み聞かせを担当する学生は事前に読み聞かせの練習を重ねて下さい。事後学修としては、絵本ノートを活用して図書館などで絵本のあらすじや内容をまとめて下さい。さらに、絵本の制作においては、各授業の進度に合わせてグループごとに制作活動を自主的に進め下さい。

評価方法
受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を40%、絵本ノートと絵本の制作を40%、最後の確認テスト20%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
保育内容指導法「生活と言葉」ワークブック吉見昌弘、三恵社	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワーの時に来訪して下さい。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	言葉とは何か
03	言葉の働き
04	言葉と児童文化財　－教材の種類（絵本、ペープサート、パネルシアター）
05	言葉を育むための保育者のかかわり　－絵本の読み聞かせについて－
06	言葉を育むための保育者のかかわり　－絵本の読み聞かせの実演－
07	子どもの言葉の発達　－乳児の言葉の発達－
08	子どもの言葉の発達　－２～３歳児の言葉の発達－
09	子どもの言葉の発達　－４～５歳児の言葉の発達－
10	保育内容の領域「言葉」－幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「言葉」－
11	保育内容の領域「言葉」－領域「言葉」と教科「国語」との関係－
12	言葉と絵本　－世界で一つだけの手作り絵本－
13	言葉と絵本　－絵コンテ作り－
14	言葉と絵本　－絵本の制作と実演－
15	まとめと確認テスト
16	なし

2018年度シラバス

科目名:国語	担当者:森川　拓也	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 教育・保育の実践者としての基本的な国語力と言語表現力を養うために、国語科は「言葉の学習」としての教科であるということの理解を深め、「言葉による見方・考え方」「言葉の習得と発達」を導く学習の意義を学びます。講義形態ですが、グループワーク・実習・発表などの活動を積極的に取り入れます。
授業の到達目標 具体的な教材を使った学びから「国語のめざすもの」「言葉による見方・考え方」「言葉の習得と発達」について理解し、実践につながる見識をもつ。言葉を使って「話す」「聞く」「書く」「考える」という基本的な力を身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 準備学修として、教材を読んでおくこと、課題を考えておくことなどが必要となります。また参考文献を読んでおく課題を出す場合もあります。
評価方法 授業に参加する姿勢・活動（20%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　筆記試験（40%）以上を総合して評価します。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領及び解説（国語）　幼稚園教育要領及び解説　　プリント（各回配付）	保育所保育指針及び解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 国語辞典が必要です。（電子辞書も可）　　各回に配付する資料は失くさないようにしてください。連絡先（メール）t-morikawa@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション　国語科は「言葉の学習である」ということの理解
02	言葉の習得と発達についての理解
03	学習指導要領「国語」から見えることの理解
04	「言葉による見方・考え方について」の理解と実習①（低学年文学教材）
05	「言葉による見方・考え方について」の理解と実習②（中学年文学教材）
06	「言葉による見方・考え方について」の理解と実習③（高学年文学教材）
07	「言葉による見方・考え方について」の理解と実習④（説明文教材）
08	文学を読むことと情報を読むことについての理解
09	日本語文法の基礎と表現の理解
10	漢字の基礎と学習方法の理解
11	言葉を使って「書く」ということの理解と実習
12	言葉を使って「話す・聞く」の理解と実習
13	言葉とイメージの関係の理解と実習
14	幼保における「言葉」から小学校「国語」への接続についての理解
15	まとめ
16	筆記試験

科目名:音楽ＩＡ	担当者:石山　英明,古賀　弘之,加藤　希央	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どものための音楽活動に関する基礎技術として、ピアノ・幼児歌曲の弾き歌いの技能、及び音楽理論の基礎（楽典）を学ぶ。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・教育を展開できるように、様々な角度から音楽について学ぶ。

授業の到達目標
課題の習得により、円滑で音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル60番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示すことも、この授業の目標である。グループ授業では、楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなどを学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ピアノ実技においては、予習・復習を欠かさないこと。また、音楽や表現の興味を自ら広げ、様々な楽曲等にチャレンジし続けてもらいたい。楽典においては、教科書や配布資料に沿って授業を展開するため、授業内容の進度に合わせた予習・復習を行うこと。

評価方法
ピアノ実技試験(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、音楽理論(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技試験は、複数の教員が個々の演奏を評価する。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、ピアノキャンバス（ドレミ楽譜出版社）、ピアノ実技と楽典（音楽之友社）	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「好きこそものの上手なれ」という言葉のように、音楽を好きである気持ちを育みながら、コツコツと努力を重ねることが音楽スキルを身につけるポイントです。また、疑問や質問は、何でも教員に投げかけてください。連絡は、isiyama@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	クラス分け／レッスン1
02	レッスン 2／楽譜の意味、音符ドリル
03	レッスン 3／音名と階名、ソルフェージュ
04	レッスン 4／音の幅、弾き歌い
05	レッスン 5／音符の長さ、音符ドリル
06	レッスン 6／リズムと拍子、ソルフェージュ
07	レッスン 7／音階と調、弾き歌い
08	レッスン 8／5度圏、小テスト
09	レッスン 9／近親調、音符ドリル
10	レッスン 10／さまざまな調号、ソルフェージュ
11	レッスン11／さまざまな記号、弾き歌い
12	レッスン12／楽語、音符ドリル
13	レッスン13／音程（完全系）、ソルフェージュ
14	レッスン14／音程（長短系）、弾き歌い
15	ピアノ実技試験／前期の復習（理論）
16	試験とまとめ（音楽理論）

科目名:音楽ＩＢ	担当者:石山　英明,古賀　弘之,加藤　希央	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
音楽ＩAの内容を受け、引き続き子どものための音楽活動に関する基礎技術として、ピアノ・幼児歌曲の弾き歌いの技能、及び音楽理論の基礎（範囲：コードの理解まで）を学ぶ。また、子どもの発達を鑑みた音楽を中心とする表現活動を理解し、保育・教育に生かせるように、様々な角度から学ぶ。

授業の到達目標
課題の習得により、円滑で音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル80番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示すことも、この授業の目標である。グループ授業では、楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌い（コード弾き）などを学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ピアノ実技においては、予習・復習を欠かさないこと。また、音楽や表現の興味を自ら広げ、様々な楽曲等にチャレンジし続けてもらいたい。楽典においては、教科書や配布資料に沿って授業を展開するため、授業内容の進度に合わせた予習・復習を行うこと。

評価方法
ピアノ実技試験(50%)、平常点(20%)、音楽理論(30%)で評価する。平常点は学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技試験は、複数の教員が個々の演奏を評価する。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、ピアノキャンバス（ドレミ楽譜出版社）、ピアノ実技と楽典（音楽之友社）	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「好きこそものの上手なれ」という言葉のように、音楽を好きである気持ちを育みながら、コツコツと努力を重ねることが音楽スキルを身につけるポイントです。また、疑問や質問は、何でも教員に投げかけてください。連絡は、isiyama@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス／レッスン1（レベルチェックと各自の課題提示）
02	レッスン 2／音程の種類、音符・音程ドリル
03	レッスン 3／音程の判定方法、ソルフェージュ
04	レッスン 4／長短系音程、弾き歌い
05	レッスン 5／完全系音程、音符・音程ドリル
06	レッスン 6／音程（派生音）、ソルフェージュ
07	レッスン 7／音程のまとめ、弾き歌い
08	レッスン 8／コードとコードネーム
09	レッスン　9／コードネームのルール
10	レッスン 10／メジャー・マイナーコード
11	レッスン11／コードの転回形、セブンスコード
12	レッスン12／器楽合奏（コードの活用）
13	レッスン13／身体表現と音楽（導入）
14	レッスン14／身体表現と音楽（応用）
15	ピアノ実技試験／後期の復習（理論）
16	試験とまとめ（音楽理論）

2018年度シラバス

科目名:児童文化	担当者:浦中　浩一	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 保育に活用できる言葉・技術等に関する知識や技術を学ぶ。（１）子どもの発達と絵本、紙芝居、パネルシアター、紙皿シアター、言葉あそび等に関する知識と技術を学ぶ（２）子どもが児童文化に親しむ保育環境、（３）子どもの経験や様々な表現活動と児童文化を結びつける遊びの展開、についての知識と技術を習得する。
授業の到達目標 様々な児童文化教材の特性を理解し、実際に教材作りを行い、子どもの遊びやイメージを豊かにし感性を養う環境構成や保育の展開方法を学ぶ。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 準備学修として授業で使用する絵本、教材などについて事前に調べ教材について理解を深める。また、事後学修として授業で製作した教材等を実際に使用し保育の展開方法、環境構成を学ぶ。
評価方法 　授業への参加態度40％　数回のミニレポート・製作物提出20％　シアター等の発表20％　　確認テスト20％（製作物　授業内で製作するもの　パネルシアター、紙皿シアター等）

教科書	参考図書
保育園・幼稚園で２歳からたのしい忍者あそびがいっぱい 著浦中こういち　かもがわ出版	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　保育所保育指針解説書授業中に適宜資料を配付する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) グループでの製作活動等を行います。意欲的に取り組んでほしい。

01	子どもの発達と言葉あそびの特性と理解（演じ・実技）
02	保育に生かす年齢にふさわしいあそび　（演じ）
03	子どもの発達と絵本の特製・理解（絵本の選び方）指定された絵本の準備等をおこなう。
04	子どもの発達とパネルシアターの特製・理解　年齢にふさわしいパネルシアターの選び方
05	パネルシアター製作　（教材作り　色の塗り方等）
06	パネルシアター製作　（教材作り　仕掛けの使い方、作り方等）
07	パネルシアター製作　（演じ方）
08	パネルシアターを使っての保育の展開を学ぶ
09	絵本を使っての保育展開を学ぶ（演習）指定された絵本等の準備を行う。
10	様々なシアターを使って保育展開を学ぶ
11	紙皿シアター製作　（教材作り　製作の仕方、テキストの作り方等）
12	紙皿シアターを使っての保育の展開を学ぶ（演習）
13	乳児保育に生かせる言葉遊び（演習・実技）
14	幼児保育に生かせる言葉遊び（製作・演習）
15	学習の総まとめ
16	定期試験は実施しない。

2018年度シラバス

科目名:図画工作A	担当者:田端　智美	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:なし		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳幼児の造形表現活動を援助するために必要な造形の基礎知識・技能の育成を行う。特に平面領域（絵画等）の授業を行う。ポップアップカードや絵本を制作することにより、保育者・教師に必要な表現力を身につける。

授業の到達目標
①乳幼児の表現活動で用いる素材・道具を用いながら、描いたり作ったりして楽しむことができる。②描画や造形の素材の特性を理解し、素材を基本的な扱いや加工するために必要な道具を安全に使うことができる。③制作の過程を大切にし、自分の作品を振り返ったり、他の学生の作品の良さに気づいたりすることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業に必要な材料の収集や道具の準備、作品管理を行う。作品をファイリングし、制作の過程や振り返りについてまとめる。授業内で作品が完成できなかった場合は、事後学修として次回の授業までに完成させる。

評価方法
受講態度20%・作品評価60%・レポート20%に対する評価点を算出し、成績とする。受講態度・作品評価・レポートに対する評価点を算出し、成績とする

教科書	参考図書
『3・4・5歳児の造形活動おまかせガイド』	幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
半期の欠席回数が6回未満とする。授業開始10分以上の遅刻は2回で欠席１回としてカウントする。レポートの提出、授業への質問・応答はムードルでも行う。連絡先tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション・授業の受け方・絵本における造形技法の紹介
02	平面演習１（ドリッピング・バチックなど）
03	平面演習２（マーブリング・染紙など）
04	平面演習３（共同制作・スタンピングなど）
05	平面演習４　（紙版画）
06	ポップアップカードの制作１(とびだす仕組みを学ぶ)
07	ポップアップカードの制作２・提出
08	絵本制作１（アイディアスケッチ）
09	絵本制作２（ストーリー展開）
10	絵本制作３（表紙画作成）
11	絵本制作４（絵本頁1.2制作）
12	絵本制作５（絵本頁3.4制作）
13	絵本制作６（絵本頁5.6制作）
14	絵本制作７（製本）・提出
15	作品発表・鑑賞・講評
16	作品返却

2018年度シラバス

科目名:図画工作Ｂ	担当者:淺野　卓司	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
造形活動に対する興味や関心を高め、乳幼児から児童を対象とする造形表現を指導・援助する者が必要とする基礎的知識・技能・作品分析力を実際の材料を用いた活動に関わることで身につける。

授業の到達目標
①素材の性質について体験的に理解を深め、それらを生かした表現方法を身につける。②素材を加工するために必要な道具を適切に選択して、安全に使うことができる。③製作過程において、自分の作品や他の学生の作品の良さを分析的に捉えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・材料の収集や道具の準備を行い、表現活動のイメージを広げるための動画（DVD）を視聴しておく。

評価方法
・欠席・遅刻が半期で5回を超えた場合に受講資格を失うこととする。・製作活動に臨む態度（事前学習、授業態度）を、評価の40点分としてカウントする。・製作における構想力、表現技術、作品分析に関する試験は60点分とする。

教科書	参考図書
『DVDでわかる！乳幼児の造形』サクラクレパス出版幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・単位認定の条件は、半期の欠席回数が6回未満であることとする。授業開始から10分以上の遅刻は、2回で欠席１回としてカウントする。・レポートの提出、授業に関する質問・応答はMoodleで行う。・製作のイメージを広げるために適宜、授業でパソコンを用いる。・オフィスアワーは金曜日昼休み、メール連絡は、asano-t@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	土粘土の研究　粘土活動の基礎知識
02	土粘土の研究　植木鉢をつくる（紐作りで粘土を積んでみよう）
03	土粘土の研究　植木鉢をつくる（どべを使って粘土を繋ごう）
04	土粘土の研究　ランプシェードをつくる（板づくりで土台を作ってみよう）
05	土粘土の研究　ランプシェードをつくる（型抜きを活用してみよう）
06	クリーム粘土に挑戦　パフェをつくる（液体紙粘土の表現方法を学ぼう）
07	クリーム粘土に挑戦　パフェをつくる（紙粘土と他の素材を活用した表現に挑戦しよう）
08	クリーム粘土に挑戦　ケーキをつくる（みんなで大きなケーキをつくろう）
09	光の折り紙　トランスパレント紙でつくる（トランスパレント紙の基礎的な扱い方を学ぼう）
10	光の折り紙　トランスパレント紙でつくる（折る・切る・ちぎるなどの表現を使って作ろう）
11	光の折り紙　鑑賞会
12	簡単なおもちゃ製作（牛乳パック・箱をつかったおもちゃ製作をしてみよう）
13	簡単なおもちゃ製作（しかけのあるおもちゃを作ってみよう）
14	小学校図画工作への接続　色水をつかって
15	小学校図画工作への接続　新聞紙を使って　体全体を使った造形活動
16	試験

2018年度シラバス

科目名:子どもの保健ＩＡ	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの保健I では、子どもの健やかな成長や発達、病気の特徴や予防法などを学びます。この講義では子ども達の健全な成長を支援するため、「子どもの保健」の意義を理解し、発育（月齢や年齢）にともない変化する身体的な特徴、生理機能、運動機能や精神機能（社会性）の発達について学びます。

授業の到達目標
1.子どもの保健の意義を説明できる。2.子どもの身体発育の特徴について説明できる。3.子どもの「生理機能」「運動機能」の発達について説明できる。4.子どもの「認知機能」「人格形成（社会性の獲得）」について説明できる。5.子どもの栄養：乳児期～幼児期の栄養の特性と注意点が列挙できる。6.子どもの事故とその防止について説明できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　子どもの保健Iで覚えるべき知識を確実なものとするため、授業外での復習を行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。

評価方法
授業への取組40%、小テストを含む講義内容に関する筆記試験60%

教科書	参考図書
子どもの保健 第7版 巷野悟郎（編） 診断と治療社	幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は授業時に案内します

01	ガイダンス　子どもの保健の現状、保健水準
02	行政が実施している母子保健活動
03	発育と発達の評価　成長曲線、統計用語の理解
04	生理機能の発達① 呼吸と循環
05	生理機能の発達② 体温調節・感覚機能・睡眠
06	生理機能の発達③ 消化・吸収・排泄
07	運動機能の発達、スキャモンの臓器別発育曲線
08	精神機能の発達、認知機能
09	精神機能と人格形成、疾病
10	子どもの栄養(1)：発育と栄養（小児の特性・食育・生活習慣病など）
11	子どもの栄養(2)：乳児期（授乳・離乳）
12	子どもの栄養(3)：幼児期・学童期
13	子どもの生活環境
14	子どもの事故　ヒヤリハットの事例
15	子どもの事故防止
16	まとめ、試験

2018年度シラバス

科目名:子どもの保健ＩＢ	担当者:船井　廣則	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳幼児の罹患しやすい代表的な病気やその予防法を中心に学ぶ。できるだけ各疾病の具体的事例を取り上げるとともに、各種の画像・映像資料などを活用して授業内容の理解が深まる授業展開を目指す。また、新聞などのメディアを積極的に利用することをとおして、現在問題となっている子どもの保健に関わる事象を知り、それらについての自らの意見をまとめ、他者に伝えることのできる能力を高める。

授業の到達目標
1.乳幼児の心身の健康状態を的確に把握することができる。2.子どもの保健に関する新しい知識や情報を、書籍や各種メディアをとおして積極的に取り入れることができる。3.将来、保護者や同僚との話し合いや共同作業などをとおして、保育者としての信頼を得ることができるだけの知識と技能を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎週シラバスに目を通し、その週の授業に関連する話題を一つ探してくる（授業中にその話題を発表する機会を設ける)。

　講義の中で興味を持ったことについて、家族や友人の間で話題にしてみる。また、乳幼児の健康や疾病に関する問題について、Moodleを利用して積極的に意見表明したり、問題提起などをしてみる。

評価方法
授業中に課す小レポート2回(20%)と小テスト１回(20%)、および期末試験(60%)によって評価する。

教科書	参考図書
巷野悟朗　『子どもの保健』　診断と治療社巷野悟朗　『子どもの保健』　診断と治療社巷野悟朗　『子どもの保健』　診断と治療社	幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説　左記以外は授業中紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業中スクリーンに提示するスライドは、あらかじめMoodle上に提示しておくので、必ず閲覧(必要に応じてダウンロード・プリントアウト)しておくこと。【連絡手段】Moodleを利用してください。

01	授業のガイダンス、子どもを取り巻く今日の自然･社会的環境について
02	新生児によく見られる異常や病気について
03	乳幼児の健康状態の評価方法について
04	子どもにみられる一般症状(全身症状)とその対処法について
05	子どもが遭遇しやすい事故とそれへの対処・予防法について　（第1回小レポート実施）
06	予防接種の目的と種類について
07	乳幼児期に好発する感染症について（１）ウイルス性感染症
08	乳幼児期に好発する感染症について（２）細菌性感染症など
09	乳幼児期に多い病気（１）アレルギー について
10	乳幼児期に多い病気（２）消化・呼吸･循環器系の病気について　（第２回小レポート実施）
11	乳幼児期に多い病気（３）血液･内分泌系・皮膚・目･耳などの病気について
12	乳幼児期に多い病気（４）悪性腫瘍・その他の病気について
13	乳幼児期のこころ、精神、神経系の病気について
14	各種の保育施設とそこでの保健･衛生問題 について
15	母子保健の現状と母子保健行政について　（小テスト）
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:多文化共生研究	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
世の中、社会は様々な人々、文化、慣習、伝統などで成り立っています。そしてそうしたそれぞれの文化を背負った者が一緒になるとき、そこには文化摩擦、時には争いも生じます。受け入れられないことは争ってでも阻止するのか、あるいは共に生きていくため妥協・合意して折り合いをつけていくのかーーー私たちはそういった場面で決断を求められることもあります。国際教養こども学科1年前期の科目として、幅広い視野と社会に対する多角的な視点を国際・国内両方の事象から考えます。

授業の到達目標
この授業は【覚える】【暗記する】より【考える】授業です。それはこれからどう生きていくか、一人の人間として人生計画を組み立てて進んでいくか、などを多文化共生の観点から考えます。留学を控える学科として、海外で学びに行く意義付けと習得すべき者は何かを考えます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
社会に対する観察力を付ける人間に対するコミュニケーション力を付ける事象に対する分析力を付ける

評価方法
授業内の発言・発信30%　授業内レポート30%　期末考査40%

教科書
①『神の棄てた裸体』石井光太　2012年　新潮文庫　590円
②『空気の教育』外山滋比古　2011年　ちくま文庫　620円

参考図書
図書館の教員指定図書(高橋)に目を通す。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
何事も恐れず、既存の考え方にとらわれないように。

01	ウサギとカメ
02	「A子はうざいよ」
03	わっしょい、わっしょい
04	黒い未亡人
05	猿回しとイルカショー
06	過去・現在・未来
07	トーキー
08	太陽は味方か敵か？月は？
09	クイズと発表
10	命
11	遊ばない保育!?
12	日本
13	天災は忘れた頃やってくる
14	国際結婚
15	地元・豊明市の取組み
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:地域研究Ⅱ	担当者:梅木　陽子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
文化・政治・社会・歴史といった様々な視点からアメリカ合衆国を多角的に読み解き、グローバル化社会に必要な知識と教養を身につけ、豊かな感性を養います。授業は事前課題への取り組みをもとに、ディスカッションを通してアメリカについて学びます。毎授業後、Moodleを通してレスポンスを提出してもらいます。

授業の到達目標
①アメリカ合衆国の社会・文化・思想についての基礎的な知識を習得し、グローバルな時代におけるアメリカ合衆国のあり方を理解する。②他国を理解することを通し、私たちの生きる現代を理解する。③多角的なアプローチを学ぶことにより、批判的（critical）に考えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各授業において、以下の通りの授業外学習活動が求められます。準備学習（2時間）：事前に与えられたリーディング課題の読破、または視聴覚資料の鑑賞。事後学習（2時間）：授業内で学んだ内容について、Moodleへレスポンスを投稿すること。各授業の最後に、Moodle投稿内容について指示するので、それに従って行うこと。

評価方法
授業への参加態度（ディスカッション、授業内発言等を含む）30%　Moodleへのレスポンス 30%確認テスト 40%

教科書	参考図書
プリントを配布する。	有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史ーテーマで読む多文化社会の夢と現実』（2003年、有斐閣アルマ）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業は、アメリカについての細かな情報を座学で学ぶものではありません。授業内で取り上げるトピックについて能動的に考える姿勢を評価しますので、「自分はどう感じ、考えたか」に常に意識的になってください。オフィスアワー、教員連絡先は授業中に指示します。

01	イントロダクション：アメリカを学ぶということ
02	アメリカ合衆国の概要とその精神
03	アメリカのポピュラー・カルチャーとその分析①ヴィクトリアズ・シークレットと美の基準
04	アメリカのポピュラー・カルチャーとその分析②流通する「多民族国家アメリカ」のイメージ
05	アメリカのポピュラー・カルチャーとその分析③ハリウッド、アメフト、テイラー・スウィフト
06	アメリカ社会における歴史の意味①『ポカホンタス』と文化盗用の問題（映画分析）
07	アメリカ社会における歴史の意味②『ポカホンタス』と文化盗用の問題（歴史表象の分析）
08	アメリカ社会における歴史の意味③ブラック・フェイスと南部連合旗
09	アメリカの日常生活①砂糖入り飲料の禁止法と銃規制
10	アメリカの日常生活②スターバックス、Sweatshop、グローバリズム
11	アメリカの日常生活③移民の国アメリカ
12	グローバルな文脈で見るアメリカ①カナダ文学『赤毛のアン』とアメリカ的イメージの流入
13	グローバルな文脈で見るアメリカ②ポスト人種のアメリカ？
14	グローバルな文脈で見るアメリカ③他者と寛容
15	まとめと確認テスト
16	なし

2018年度シラバス

科目名:チームビルディング実践	担当者:寺田　恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　チームで働くことの意味や意義を理解し、協力してより良いものを創り上げていくための理論と実践について学ぶ。授業の前半では、個人的スキルや問題への取り組み方がチーム力アップの可能性に繋がることをあらゆる角度から理解し、後半では、実践を通してより優れたチームとしての取り組み方を身につける。

授業の到達目標
　学生は、他者の力と自分の力を融合させ、チームの課題や目標に向かって物事を構築していく、その方法と実践力を身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　前もって与えられたテーマに対して発言できるよう準備をしてくることを準備学修とする。また授業で学んだ内容をフィードバックし、現在の自分に足りない力を客観的に把握すること、さらにその力の習得に必要な方法を、自ら考え実践することが事後学修に相当する。

評価方法
毎回のミニレポート（3点×15回＝45点満点）、実践研究のグループ発表（10点×3回＝30点）、試験25点満点の合計100点満点で評価する。

教科書	参考図書
特になし。その都度プリントを配布。	その都度提示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
チームビルディング用のファイルまたはノートを用意すること（A4サイズ）連絡を取りたい場合は寺田恭子研究室（管理棟2-4）まで。授業の前後でもOKです。

01	チームビルディングとは何か
02	様々な現場におけるチームでの働き方
03	自己の成長　他者の成長（自己分析・他己分析）
04	自己期待と他者期待
05	チームの課題達成のプロセスにおける重要ポイント
06	立案・合意形成・役割分担
07	リーダーシップとフォロワーシップ
08	課題発見力と全体を俯瞰する力の育成
09	実践研究①　課題への取り組み　～私たちが目指したい保育者～行動指針マップ制作
10	実践研究②　発表・批評・フィードバック
11	実践研究③　各グループテーマの設定・発展的取り組みの実際
12	実践研究④　発表・批評・フィードバック
13	実践研究⑤　統一課題への取り組み　掘り下げ方と新たな可能性への取り組み
14	実践研究⑥　発表・批評・フィードバック
15	チームビルディングのまとめ　個々におけるチームビルディング力の客観的評価と課題
16	試験

科目名:Basic Communication in English I	担当者:Lauren Landsberry, Indu Juneja	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes willinclude a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident andproficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn usefulphrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversations in English with a helpful native speaker.

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and classpreparation before each class. More time will be expected when preparing for assessmenttasks.

評価方法
Class participation: 15%Homework and class preparation: 15%Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%

教科書	参考図書
Breakthrough Plus 3	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Attendance: Students are expected to attend class regularly.

01	Unit 1 - Memories part 1
02	Unit 1 - Memories part 2
03	Unit 2 - Life Changes part 1
04	Unit 2 - Life Changes part 2
05	Unit 3 - Viewpoints part 1
06	Unit 3 - Viewpoints part 2
07	Review 1
08	Unit 4 - Problems part 1
09	Unit 4 - Problems part 2
10	Unit 5 - Thinking Ahead part 1
11	Unit 5 - Thinking Ahead part 2
12	Unit 6 - Imagine! part 1
13	Unit 6 - Imagine! part 2
14	Review 2
15	Review of all units and progress check
16	No test

科目名:Basic Communication in English II	担当者:Lauren Landsberry, Indu Juneja	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes willinclude a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident andproficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn usefulphrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful fifteen-minute conversations in English with a helpful native speaker.

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and classpreparation before each class. More time will be expected when preparing for assessmenttasks.

評価方法
Class participation: 15%Homework and class preparation: 15%Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%

教科書	参考図書
Breakthrough Plus 3	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Attendance: Students are expected to attend class regularly.

01	Unit 7 - My World part 1
02	Unit 7 - My World part 1
03	Unit 8 - Past Events part 1
04	Unit 8 - Past Events part 2
05	Unit 9 - Feelings and Opinions part 1
06	Unit 9 - Feelings and Opinions part 2
07	Review 3
08	Unit 10 - What if…? part 1
09	Unit 10 - What if…? part 2
10	Unit 11 - Work it out part 1
11	Unit 11 - Work it out part 2
12	Unit 12 - Looking back part 1
13	Unit 12 - Looking back part 1
14	Review 4
15	Review of all units and progress check
16	No test

2018年度シラバス

科目名:教育実習入門	担当者:田端　智美, 寺田　恭子	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:なし		単位数	1
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
幼稚園の教育の実際を体験的に学修し、目標を達成する。

授業の到達目標
①幼稚園の役割や機能についての理解　②就園している子どもについての理解　③観察・参加・部分実習・指導実習を通して教育の実際についての理解　④教諭の職務内容についての理解　⑤家庭・地域との関係についての理解

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習のための体調管理を十分に行うこと。絵本の読み聞かせ、手遊び等の事前準備をしておくこと。

評価方法
実習園からの評価60%、実習日誌20%　実習事後レポート10%、その他(実習への意欲・実習状況・実習巡回指導報告書など)10%を総合して評価する。

教科書	参考図書
教育実習入門手引き・ハンドブック	幼稚園教育要領及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教育実習入門手引き・ハンドブック

01	1週間の教育実習入門実習を対象に、その事前、事後における指導を通して実習における学習課題の効果的な達成と、部分的とはいえ社会公共的な活動への参加にあたっての留意事項等の確認等を課題とする。 本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習入門指導」を履修することが条件となる。 （未履修者は本実習に参加することはできない） 遅刻・早退・欠席等については、必ず申し出ること。　連絡手段　事務局実習担当
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2018年度シラバス

科目名:海外保育フィールド・スタディ	担当者:髙橋　一郎,小野　克志	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
海外の保育現場に実際に入り実習を行う。日本との違い、共通点など、様々な視点で異国における保育現場を観察する。
2018年度はニュージーランド郊外ハミルトン市街の保育園を中心に実習を行う。

授業の到達目標
①日本の保育と外見上の違いのみならず、保育に対するコンセプトの違いも学ぶ。何がどう違うのか。どのような考えに基づいて保育が行われているのか、などを自分なりに発見する。②可能な範囲で英語でコミュニケーションを取るようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業内で指示します。

評価方法
①事前指導クラス　②現地実習　③事後研修　のそれぞれの出席及び活動を総合的に評価します。

教科書	参考図書 『保育の場で子どもの学びをアセスメントする―「学びの物語」アプローチの理論と実践』マーガレット・カー　2013年

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	①事前指導 授業で渡航地の文化、実状などを学ぶなどの事前学習を行う ②現地実習 現地で保育園に入り実習を行う。最後には子どもの前で出し物を出す ③現地文化 全員ホームステイで生活をする。保育のみでなくその国の文化を経験する ④現地学習 現地の高等教育機関(大学) を訪ね、講義を受ける ⑤現地視察 障がい児施設、先住民専用の園、など訪問し見聞を広げる ⑥事後研修 2週間の滞在を終えての反省会
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2018年度シラバス

科目名:海外幼児教育インターンシップ	担当者:加藤　あや美,内田　政一	開講学科等	保育学部 国際教養こども学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 海外（主にニュージーランド）における保育・幼児教育の分野でのインターンシップを通して、国際的な視野を持った教育者・保育者としての素地を養います。また、現地での研修に参加することにより、実践的な英語を学びつつ、様々な人や文化と接触し、異文化理解を深める機会とします。授業は、事前指導と現地での語学研修・実習、及び事後指導で構成されています。渡航期間は2月下旬から3月中旬までの3週間程度の予定です。
授業の到達目標 研修先であるニュージーランドを中心とする海外の保育・幼児教育事情を知る。また、現地での研修により、異文化に直接触れ、異なる他者への理解を深める。加えて、日常的な英会話を身につけ、英語を使って現地のこどもと簡単なコミュニケーションをすることを目指す。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 ニュージーランドで研修を行うことを踏まえ、その準備段階に当たる事前授業への出席は必須とします。また、事前授業では、コミュニケーションに特化した英語を学んでいきますが、授業以外においてもListening,・Speakingを中心とした英語の学習を怠らないようにしましょう。
評価方法 授業への参加度　30%　現地実習評価　40%　実習記録作成　30%

教科書	参考図書
適宜、プリントを配布します。	授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 海外への渡航を伴う科目であるため、事前に説明会を開催します。受講を希望する学生は、原則として説明会への参加が必須条件となるため、必ず参加するようにして下さい。（オフィスアワー：火曜昼休み）

01	＜事前授業＞ 事前授業では、プログラム内容の詳細な説明や旅行業者による渡航に関わる提出書類等についての説明を丁寧に行っていきます。また、現地でのコミュニケーションに必要な実践的な英会話のトレーニングにも取り組みます。さらに、昨年度参加者によるプレゼンテーションの機会を設け、海外渡航への不安解消に繋げていく予定をしています。 ＜現地研修＞ 研修実習国はニュージーランドで、滞在先はホームステイを予定しています。また、参加費用は30～40万円後半までの設定となる見込みです。１週目は語学及び文化研修を主としたプログラムに参加します。2～3週目は、現地の保育・幼児教育施設にてインターンシップを行っていきます。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	